

# 中期経営計画'08について

日本テレビは、長期的な観点からメディアとしてのるべき姿を見据え、  
今後3年間の経営目標と、その達成に向けた具体的な取り組みを中期経営計画として定めています。

## <長期経営ビジョン>

時代とともにどのように伝送路が変わり、どのように収益を生み出す構造が変わることでも、  
日本テレビの競争力の根源は、映像を中心としたメディアコンテンツ制作能力です。  
「日本テレビが提供するコンテンツが、公正・有益な報道として、  
あるいは健全なエンターテイメントとして、多くの国民に支持されること」を前提に、  
「全てのメディアの伝送路において、映像文化の最大の担い手であり続けること」が、  
未来に至るまで変わらぬ日本テレビのるべき姿と考えています。

### 将来にわたり日本テレビのるべき姿＝長期経営目標

1	放送を軸にあらゆる伝送路の広告市場で <b>No.1</b>
2	あらゆる伝送路のコンテンツ供給で <b>No.1</b>
3	放送事業以外にも収益の大きな柱がある
4	あらゆる評価で <b>No.1</b>

## <中期経営目標>

### 2008年度総合優勝＝4つの**No.1**

1	放送収入で売上 <b>No.1</b>
2	コンテンツ流通で売上 <b>No.1</b>
3	放送外収入で伸び率 <b>No.1</b>
4	顧客満足度で <b>No.1</b>

## 目標達成のための中期経営戦略

1	コンテンツ制作力の更なる強化による収益拡大のための施策 1. 個性的なコンテンツ企画を採用する新基準の導入 2. 「視聴満足度調査」の更なる活用 3. 報道番組・スポーツソフトの充実 4. 「番組制作費」概念の根本的な見直し→投資のメリハリ 5. 人材育成 6. プロ野球中継の戦略再構築 → 制作上の工夫、PRの強化、コンテンツ価値の最大化のためにBS、CS、インターネット等を含めた柔軟な検討
2	放送外収入の拡大のための施策…地上波コンテンツのマルチ展開とノウハウの活用 1. 通販事業 → 地上波連動の強力な推進、モバイルによるマルチ展開 2. ライツ事業 → アニメなど地上波連動の強化 3. 映画事業 → 地上波ドラマ連動企画推進、海外マーケットへの進出 4. IT関連事業 → 「第2日本テレビ」のオリジナルコンテンツの充実、(株)フォアキャスト・コミュニケーションズを中心としたIT事業の業域拡大
3	不動産事業 → 麹町の不動産の有効活用を最重要の戦略課題と位置づけ、現在全社的なプロジェクトにより検討中
4	M&Aの積極的な活用 → 攻めを重視した戦略の加速

## 財務・配当政策

1	重要な経営指標 「売上高経常利益率」
2	配当性向 「33%」(下限150円)



## 2008年度連結業績目標

	2005年度 (実績)	2008年度 (目標)	2005年度比	05→08成長率 (年率)
連結売上高	3,466億円	4,280億円	+814億円	+7.3%
テレビ放送事業収入	2,772億円	3,100億円	+328億円	+3.8%
放送収入	2,554億円	2,880億円	+326億円	+4.1%
放送外収入	694億円	1,180億円	+486億円	+19.4%
連結経常利益	300億円	430億円	+130億円	+12.7%
経常利益率	8.7 %	10.0 %	+1.3 %	
テレビ放送事業収入の 売上高に占める割合	80.0 %	72.4 %	-7.6 %	—